

# 【第九章】 資料編



# 台風被害、救助に全力

## 野田内閣が本格始動

### 副大臣を閣議決定へ

基本方針を説明する。藤村修官房長官は内閣府職員への訓示で、東日本大震災の復旧・復興に言及し「首相の女房役として政治を前進させたい」と強調した。

同席した細野豪志原発事故担当相は「東京電力福島第1原発事故の問題を乗り越えずに日本政府の信頼回復はあり得ない」と指摘。

鎌倉吉雄経済産業相は省内で海江田万里氏から引き継ぎを受け「原発事故の収束が最も大きな課題だ。国民の期待に応えたい」と決意を語った。

運輸行政刷新担当相は「被災地の復興を後押しするため、さらなる行政刷新を進める」と述べ、復興財源確保に向けた歳出削減に意欲を示した。

<平成23年9月6日付 奈良新聞>

野田佳彦首相は5日、台風12号による大雨被害に随し「人命救助と行方不明者の救出に全力を尽くす」と官邸で記者団に述べ、対応を急ぐ考えを表明した。臨時閣議では副大臣、政務官、首相補佐官らの人事を決定。野田内閣が本格始動した。首相は夜、新たに任命した副大臣、政務官を官邸に集めて、政権のあり得ない」と指摘。

# 災害救助法を適用 五條や十津川

台風12号の被害により、県南部で多数の人的被害が発生、また可能性があることや、避難者に対する継続的救助が必要として、県は5日、災害救助法の適用を決定し、厚生労働

省に報告した。2日付。対象地域は五條市のほか御杖村、吉野町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、川上村、東吉野村。県内での災害救助法適用は、平成10年9月の台風7号の風雨被害で五條市に適用されて以来。

査中で、適用区域がさらに追加される可能性もある。

<平成23年9月6日付 奈良新聞>

# 両陛下がお見舞い お言葉に

台風12号による甚大な被害を受けた県に対し、天皇、皇后両陛下からの被害者へのおお見舞いと被災地へのお見舞い、救難救助活動を行う方々に対する激励のお言葉が5日午後3時10分、宮内庁長官を通して電話で荒井正吾知事に伝えられた。

# 台風12号 十津川、五條、被害甚大

## 橋や発電施設も

# 3人死亡、19人不明



大規模に崩落した斜面＝4日、五條市大橋町建設

# 民家5軒埋まる 五條・大塔

【本紙記者特別取材】台風12号の被害が、五條市大塔町の大塔地区に及ぶ。大塔地区は、大塔川沿いに民家5軒が埋まる被害が出た。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。

<平成23年9月5日付 奈良新聞>

大塔地区は、大塔川沿いに民家5軒が埋まる被害が出た。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。

大塔地区は、大塔川沿いに民家5軒が埋まる被害が出た。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。

大塔地区は、大塔川沿いに民家5軒が埋まる被害が出た。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。また、大塔川沿いの道路も崩壊し、交通が遮断された。



十津川・野原の住宅崩壊

十津川・野原の住宅崩壊。台風12号の被害が、十津川市野原地区に及ぶ。野原地区は、十津川沿いに住宅が崩壊し、交通が遮断された。また、野原地区の道路も崩壊し、交通が遮断された。

# 50年連れ添った妻に思い

そこにいるはずの妻 ない。紀久世さんがハ  
がない。50年も連れ 1ト動めていた交流  
添ったのに、突如、台 館に身を寄せ「早く見  
風が二人を引き裂い つかつてほしい」と祈  
た。

「父ちゃん、山が追  
避難所になっている つてくるわい」。4日  
「ふれあい交流館」。 午前7時ごろ、家で紀  
地元の郵便局に勤める 久世さんと交わした言  
長沼隆（のほ）さん 葉が折れられない。二  
（6）は妻の紀久世さ 人々を感しに眺めた川  
（70）と連絡が取れ 向かいの山肌を真っ茶

## 大塔・宇井、長沼さん

色の水が流れ、大きな 川は激しく逆巻き、道  
石が転がり始めてい 路を寸断した。家のあ  
た。不安はあったが、仕 込まれていた。  
事があるので自宅を後 紀久世さんはいつも  
に。約10分後、1 午前8時すぎに家を出  
さばる車を走らせた。 午後8時すぎに家出  
た。爆薬が破毀し、 受付や清掃の仕事を  
たまたま大きな音が聞 始めるはずで、また家  
こえた。振り返ると土 ている時間だった。  
煙が上がり、山が崩落。 一家は川から離れた高  
土砂でせき止められた 台にあるので大丈夫と

## 「早く見つけたい」



行方不明になっている妻紀久世さんの写真を見詰める  
長沼隆さん。6日、五條市大塔町宇井

思っていた。長沼さ 持っていた数枚の写真  
んは肩を落とした。 捜索中の消防隊員  
夫婦は今年で結婚50 が土砂に埋もれた家の  
年目。近所の人や仲間 中から見つけ出して  
も交えてよく北海道や れた。その中に、紀久  
沖繩を旅行した。手に 世さんがラオケ会の  
とつぶやいた。

長沼さんは夜、交流  
館の駐車場に止めた軽  
自動車一人で休む。  
「寝る場所は避難所に  
いくらでもあるけど、  
大勢の中では眠れない  
し、妻のことをいろいろ  
考えてしまうから」。  
助手席のタッシュポ  
ードに、長年寄り添っ  
妻の写真をそっしま  
い込んだ。

# 襲う土砂 突然の別れ

## 避難住民「シヨック」

### 五條・大塔

### 谷水くみ飲料水に

# 轟音、地響き 斜面崩落



避難所に避難している、疲れきった様子の住民II  
5日、五條市大塔町のふれあい交流館

台風12号の影響で死者1人と行方不明者10人が出ている五條市大  
塔町宇井地区のふれあい交流館では、同地区をはじめ蒲水、赤谷閉  
君各地区と十津川村長殿の住民が約70人から日も避難している。  
宇井地区の上田史孝（たけし）さん（70）「下」という  
自治会長の話による。地震とともに沿岸の  
と、4日午前7時23分、山の斜面が崩落、その

勢いで崩落した土砂と  
増水した十津川の水が  
同地区へ押し寄せ、民  
家12戸と宇井集会所、  
消防団の屯所、空き家  
1戸などを押し流した  
という。川沿いの住民  
は、日役から避難して  
いた。

同町辻堂の大塔支所  
から同地区までの国道  
1608号も土石流のた  
め通行できなくなっ  
ている。徒歩で入るル  
ートが確保されて食料は  
人力で運搬。飲み水は  
谷水をくんで使用して  
いるという。

ふれあい交流館に避  
難している清水地区の  
谷口繁明さん（76）は  
「明治時代にあったた  
いっく災害以来、こんな  
土砂崩れは聞いたことな

がない」。約50年前に  
同地区に移り住んだと  
いう高木機一郎さん  
（77）は「こんな土砂  
災害は想像できなかった。  
想像できていたはず  
なのに、洗濯物もたま  
つていて、とりあえず  
電気を早く通してほし  
ない」と訴えていた。

「シヨックで何も食  
ることができない。電  
話は通じず、テレビで  
ニュースを見ることも  
できないので情報が入  
らない。洗濯物もたま  
つていて、とりあえず  
電気を早く通してほし  
ない」と訴えていた。

# 土砂ダム決壊の恐れ



五條市大塔町赤谷付野土砂ダム。左下が下流。C2（国土交通省近畿地方整備局提供）

<平成23年9月9日付 奈良新聞(一部省略)>

県は9日、国土交通省が奈良和歌山両県内の四つの土砂ダムで実施していた緊急調査の結果、五條市大塔町赤谷の天然ダムが決壊する恐れが出て、非常に危険な状態となつていてを公表した。

## 五條・大塔の1カ所 162世帯に避難指示

同省の前日の調査 出ているのが確認され、熊野川の下流域に、世帯300人に対し、ダムが下流に新たに たいてい、すくそに、当分の土津川も同日 避難指示を出した。

できた状況の水たまり 2戸の家屋があり、避 午後、流域の長興、宇 力所で、国交省はヘリ コプターからレーザー 距離計で計測するなど 6、7日に実施。

# 増える水位 緊張走る

五條・猿谷ダム

## 市2地区に避難指示

### 流入、放流量上回る

#### 住民「もううんざり」



若防直前に付き添われながら避難する住民。21日午後7時57分、五條市大塔町赤本

猿谷ダムでは20日から、強い雨に備えて放流量を順次増加。21日には、午前7時から最大毎秒約315立方メートル、同11時30分から約500立方メートルを放流した。しかし流入量は最大633立方メートル（午後1時時感）になると放流量を上回った。ダム水位は常時満水位43.6メートル（標高）近くまで上昇。最高43.5・62メートル（午後4時30分時感）まで達した。「流入量に対して放流量が少なく、満水に

て、市災害対策本部では午後1時ごろ、緊張感が漂った。ダムを管理する国土交通省紀伊川ダム総合管理事務所は「天丈夫だと保障できるのか」と電話で話しかける場面も、市は方が一に備えて、ダム周辺2地区に避難指示を出した。阪本地区では市職員の巡回や市バスで町内の避難所へ移動した。同地区の男性(68)は「21日になってダム水位がどんどん増えていった。台風12号の時にも避難したが、それ終わらなと思つていたのに」とうんざりした様子で語った。

<平成23年9月22日付 奈良新聞>

# 不明者の手掛かり早く

台風被害

## 河川敷ローラー捜索

県警など540人態勢



孤立入りし地帯の状況を確認する県庁職員。五條市大塔町宇井地区（市境）。

大塔・宇井—二津野ダム48\*<sup>+</sup>

台風12号の災害で、なまぐさの行方不明者の身元が判明していない五條市大塔から十津川村にかけて27日早朝、陸上自衛隊、地味消防隊が約40人態勢で「河川敷」方式での捜索活動を実施し、27日には、捜索範囲十津川川の県境から和歌山県宮前市へもひろげられた。

大塔町宇井地区は、約10人の行方不明者が発生し、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

変わり果てた光景に涙 現場に住民

五條市十津川村警戒区域を縮小  
五條市十津川村は、5時に警戒解除を要請。長瀬川下流の警戒区域の一部は警戒解除となった。また、警戒区域の一部は警戒解除となった。

五條市は26日午後、大塔町宇井地区の警戒区域を縮小した。警戒区域の一部は警戒解除となった。

大塔町宇井地区は、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

大塔町宇井地区は、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

大塔町宇井地区は、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

大塔町宇井地区は、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

大塔町宇井地区は、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

大塔町宇井地区は、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

大塔町宇井地区は、27日午後、大塔町から県警、消防隊など約540人の態勢で捜索活動が行われた。捜索活動は、大塔町から県境を越えて十津川川上流へも展開された。

〈平成23年9月28日付 奈良新聞〉

# 避難所支えた「世話役」

五條・大塔の山崎さん避難先移動



「世話役」として避難所を支えた山崎さん(左)は27日、五條市大塔町野の西教寺。

台風12号による土石砂災害で五條市大塔町野地区の西教寺に避難していた辻堂地区の住民4世帯5人は23日、町内の公共施設「星のくに」に避難先を移した。危険と隣り合わせの生活から解放され安堵の表情を見せる一方で、任み慣れた地元を離れる寂しさや複雑な気持ちがある。

【13面に関連記事】

## 台風被害 地元との別れ 安堵と寂しさ

寺で「世話役」を務め「うれしい半面寂しい」  
めしてきた山崎ミチ子さん(73)は、市内に住む娘毛への避難先を「娘さんへ4日前、住民約30人と寺に避難した。当初は慣れない共同生活

活に戸惑った。それでも舟やお金の配当や片付け、掃除、洗濯などの手伝いを買って出で、男性が多い避難所を支えられた。

「若い時から世話好き。賢いってほしく気が付くと感心す。

〈平成23年9月24日付 奈良新聞〉

身を寄せる寺は民間で、住職の家族も住んでいる。そのため住民は市と調整して公共施設への移動を決めた。

山崎さんは誘いのあった長女の家に移る道を選んだ。ただ住民が移動する前日には、「共同生活」慣れたところ「皆別れると思う」と寂しい心情を吐露。

当日の23日は寺に残った住民の出発を見送った。

地区では土石砂災害の恐れもあり避難指示解除の見通しは立っていない。

「友だちでもない家も片付けないといけない。娘の家に行き来しながらでも、長年住み慣れた地区へ戻りたい」と話している。

# 日常生活、徐々に

## 五條 仮設住宅59戸着工 十津川 スクールバス再開

台風12号豪雨で被災した五條市と十津川村跡地や駐車場の2カ所で30日、仮設住宅の着工やスクールバスでの建設に着手。完成まで1カ月程度かかる見通し。自宅が警戒区域に入ったたりした市内7地区の約140人が入居する。

五條市では、高校の緊急仮設住宅にはブルーシートが使用され、旧県立五條高校跡地（岡口1丁目）に12戸、大塔郷土館駐車場など（大塔町阪本）に17戸。被災者から「体調が



緊急仮設住宅の建設工事が始まった旧五條高校跡地＝30日、五條市岡口1丁目

21戸を建設。五條高午前8時ごろ、警戒区域にあって校舎が使えない村立中学校の生徒が、今月1日以來の運行となるスクールバスを使って別の中学校に登校した。

多くの生徒はバス停で待ち合わせる教員の姿が見える。笑顔で手を振っていた。バスを降りてからは「久しぶり」と声を掛け、「背が伸びたか」と問われ、はにかむ男子生徒もいた。村立小中学校の再開は3校目で、残る5校は3日に再開する。

増加した。対象世帯に応じたタイプ別では、1DK18戸▽2DK20戸▽3DK

## やはり落ち着く／早く指示解除を



一時帰宅して家の中を確認する住民＝28日午後1時45分ごろ、五條市大塔町宇井地区

### 五條・大塔の4地区

### 野迫川・北股きょう実施

# 避難住民が一時帰宅

## 35世帯、2時間滞在

台風12号豪雨でできた土砂ダム決壊の恐れがあるため、警戒区域や避難指示に設定されるなどして避難生活が続いている五條市大塔町の赤谷、清水、宇井、閉居各地区の住民35世帯60人が28日午後一時帰宅した。

宇井地区では、21世帯36人が自宅に約2時間滞在。着の身着のままで避難した住民が多く、これから本格化する寒さに備えて冬物の衣類などを持ち出していた。

8日に避難して以来、家に戻ったのは1回だけという無職市平克之さん（71）は、懐中電灯を手に家の中を確認。「やっぱり落ち着きます。地区の半分が被害を受けているのが心配だが、住み慣れているのでここに戻っ

てきたい」。荷物を運び出すため家の中を車の間を往復したタクシー運転手の三木栄次さん（53）も「避難指示が解除されて帰れる日が待ち遠しい」と話していた。

無職中田良子さん（76）は「家の片付けが済んでよかったが、冷蔵庫の中にハエがいて大変だった。何とかまた家に帰れたらいい」と話していた。

### 台風12号災害

## 予算要求や計画策定

## 県が復興推進本部設立

# 26年度まで集中期間

台風12号災害の復興・復旧へ、県が本格的に動き出す。最大規模の被害を受けた新宮町地域で「災害に強い奈良のまちづくり」を推進する。復興推進本部は、本格的な復興・復旧の準備を進める。復興推進本部は、本格的な復興・復旧の準備を進める。復興推進本部は、本格的な復興・復旧の準備を進める。



復興推進本部のスタートにあたり、自ら看板を設置して意気込みを示す荒井知寿。7日、県庁

復興推進本部のスタートにあたり、自ら看板を設置して意気込みを示す荒井知寿。7日、県庁

チャンスを捉え、孤立した町を繋ぎ、復興の足掛かりとする。復興推進本部は、復興の足掛かりとする。復興推進本部は、復興の足掛かりとする。

所の工務課と連携し、復興の足掛かりとする。復興推進本部は、復興の足掛かりとする。復興推進本部は、復興の足掛かりとする。

復興推進本部は、復興の足掛かりとする。復興推進本部は、復興の足掛かりとする。復興推進本部は、復興の足掛かりとする。

大塔小と大塔中の児童、生徒の笑顔がはじけた「体育集会」=7日、五條市西吉野町宗川野の旧西吉野小学校



## 大塔小・中が「体育集会」

## 運動会代わり 保育所も参加

両校は、9月4日に発生した大規模な土砂崩れなどで住宅がのみ込まれ5人が死傷、6人が不明となった同市大塔町字井にある同じ校舎を使っていた。グラウンドなどが荒され、周囲の民家に避難指示が出ていることから、生徒らは現在、約20キロ離れた市内の旧西吉野小の校舎に通う。豪雨前、地元住民も募って運動会に参加する予定だったが、子どもたちと保護者だけで体育集会を開催すること

被災のため同様に

<平成23年10月8日付 奈良新聞>

西吉野小学校舎を使う大塔保育所の園児も加わり、体育集会に約25人が参加。心地よい風が

吹く秋晴れの中、子どもたちは休む間もなく、徒競走や玉入れなどのプログラムをこなす。「疲れた」と言いながらも笑顔でグラウンドを駆け回り、自分の出番が無いときは「がんばれ！」と大きな声援を送っていた。小学生の徒競走で1位になった大塔小3年の市平遼祐君（9）は「走るの得意。運動会はやっぱり楽しい」とはしゃいでいた。

### 台風12号災害

# 走り回って笑顔に

台風12号による紀伊半島豪雨で被災し、仮校舎で授業をしている五條市の大塔小、大塔中学校の児童、生徒らが7日、9月に予定されていた運動会に代わる「体育集会」を開いた。

**地域**  
この1年

**五條市**

病原性鳥インフルエンザの感染が県内で初めて確認された。10万4943羽もの飼育鶏が殺処分され、埋却された。市内の養鶏場が高れた。県内で最も養鶏業が盛んな土地で、感

**太田新市長激戦制す**

9月の台風12号に伴う豪雨では、大塔町字井地区で11人の死者、行方不明者が出たほか、辻堂地区の土砂崩落で国道168号が寸断。自衛隊や警察、消防による捜索活動が展開される一方、国道の応急復旧工事や迂回(つかり)路確保の対策が早急にとられた。国道は10月30日には五條市から和歌山県境まで全線開通。11月に



土砂崩落現場を捜索する自衛隊員＝9月6日、五條市大塔町字井地区

五條市の主な出来事	
2・28	市内養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの感染を確認
3・16	「賀名生」の地名復活案が市議会で可決
4・10	統一地方選の県議選で秋本登志嗣氏が再選
4・24	市長選で大田好紀氏が初当選
5・1	市立五條文化博物館が2年ぶりに再オープン
9・4	台風12号豪雨による土砂崩れで、大塔町字井地区では死者・行方不明者11人に
10・30	国道168号の仮復旧で全線開通

市立五條文化博物館は指定管理者制度を導入して2年ぶりに再オープン。西吉野町では南朝の歴史を伝える「賀名生(あのおう)」の地名がおよそ半世紀ぶりに復活した。市の3体のマスコットキャラクター「ゴーチャン」「カッキー」「星博士」でつくるユニット「トコトカタスター」も誕生。今後のPR活動の活躍に期待がかかる。智弁学園野球部は全国高校野球選手権大会でベスト8進出を果たし、市民を興奮させた。

<平成23年12月17日付 奈良新聞>

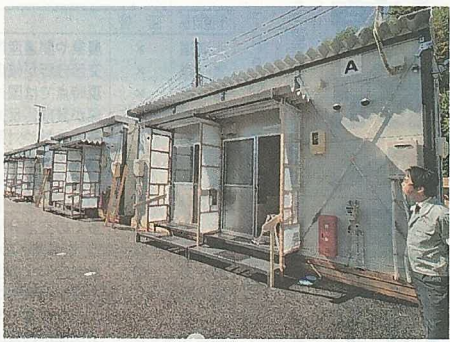
**生活再建 また一歩**

**台風被災地**

**大塔で仮設住宅完成**

**十津川 折立橋あす開通**

台風12号豪雨の被災地では30日、復旧復興に向けた新たな一歩が進む。五條市大塔町では、住民向け仮設住宅が県内で初めて完成し、同日入居を開始。十津川村折立では、台風の影響で落橋し応急工事が続いていた国道168号の折立橋が同日開通する。



完成した仮設住宅＝28日、五條市大塔町阪本

五條市大塔町阪本の仮設住宅は、大塔郷土館駐車場などにはプレハブの仮設住宅17戸が完成し、28日公開された。1人用の1DK(7戸)▽2〜3人用の2DK(3戸)▽4人以上用の3K(7戸)のタイプがあり、計41人が入居する。ベランダ付きで、玄関や風呂、トイレはバリアフリー仕様。寒冷地対策として、二重サッシや断熱仕様の外壁

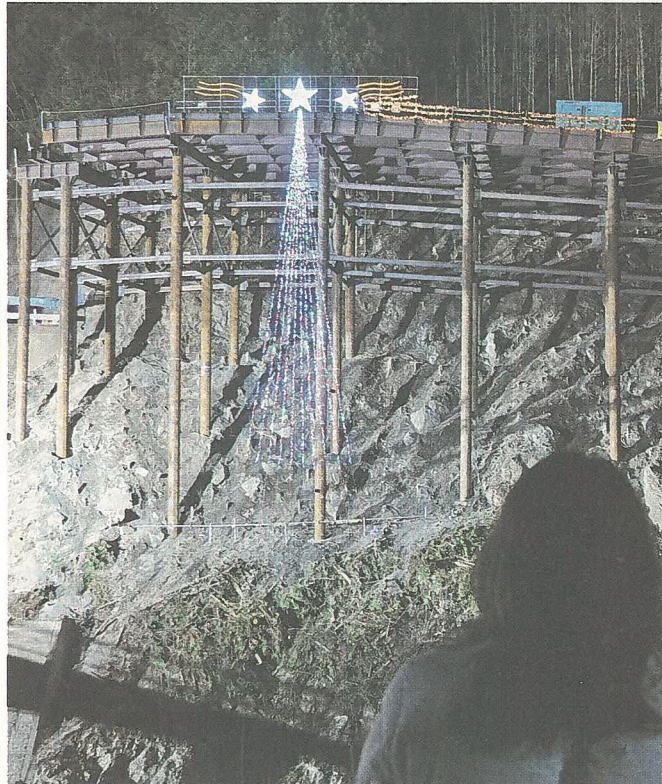
が使われている。30日に入居手続きや鍵の引き渡しがあり、県からは住民の意向に応じて、テレビや冷蔵庫などの暖房器具が提供される。県住宅課の杉本敏昭課長補佐は「不自由な生活をされていた中で、ようやくプライバシーも守られ、家族水入らずの生活ができるのでは」と話している。

(旧県立五條高校跡地)40戸が11月5日に、十津川村30戸と野迫川村27戸が11月中旬に完成する予定。入居期間は2年間。

<平成23年10月29日付 奈良新聞(一部省略)>



台風12号災害の復興を願って点灯されたイルミネーション=16日、五條市大塔町辻堂地区



## 再生への光1万個 五條・大塔

台風12号豪雨災害からの早期復興を願って、被災した五條市大塔町の企業や有志が16日、辻堂地区に建設中の仮設道路にイルミネーションを点灯した。

今月30日まで毎夜、点灯する予定。市村合併前の旧大塔村当時から遊湯・星(㊦)・とう・せじ(㊧)をコンセプトにむらつくりをしてきたことから、「星に願いを」復興への道しるべ」をテーマに点灯。

発光ダイオード(LED)約1万個を使用し、建設中の仮設道路を利用して高さ約25m、幅約12mのツリーを制作。先端に直径約1.8mの大きな星、両脇に流れる星を配置した。

工事中の発電で発生する電力の余力を利用する。

地元企業も有志もつくる「大塔探星(再生)イルミネーション点灯会議」の榎尾祥代表(㊨)は大塔町再生への切なる思いを光に託したい」と話した。

<平成23年12月17日付 奈良新聞>

# 新仮設迂回路が完成

台風12号被害  
五條・大塔168号

## 大型車も通行可能 復旧・復興へ弾み



通行が始まった国道168号の新迂回路(27日、五條市大塔町内)

昨年9月の台風12号豪雨に伴う土石流により、通行不能となった五條市大塔町辻堂地区の国道168号に、大型車両も通行可能な新たな仮設迂回路が完成し、27日午後1時から供用が開始された。

人命救助ドライブラインの復旧を重視して、災害直後の9月22日に設置された仮設迂回路は、道路幅4mで交互通行を実施。車両も車長8.5m以下、車重6t以下の制限があった。

大型車両は土石流のあった本道を急復旧し、監視員を置いて通行していたが、夜間や雨天時は通れなかった。

新迂回路は同町堂平一辻堂地区で事業中の168号辻堂ハイパスの工事用機械を活用して、県が設置、延長830m、幅6m、時間帯や車両の規制なし

<平成24年2月28日付 奈良新聞>

に通行ができるようになった。戻ってきてくれるのは10期待。

十津川村観光振興課は「大型観光バスが通行できず、旅行者がツアーを組めなかった。これでツアー客が回復し、復興に向けてさらに進むことが期待される。」と話している。

れる。土石流現場の砂防工事も本格化できると話している。

2012 防災特集

インタビュー



五條市長 太田 好紀氏

おた・よしのり 昭和36年10月23日生まれ。大分工業大学理工学部卒業。平成7年4月、旧西吉野村議会議員初当選。以後、村議会議員、五條市議会議員に連続5期当選。五條市西吉野町城戸

被災住民の早期帰宅へ努力

防災システム再構築

とえば天守平の地域区も五條と西吉野は奈良県北東、大塔は南部になります。また地形的にも平坦な心部と山間部があります。この地域特性の違いを踏まえて検証していかないとけないのではないのでしょうか。たとえば傾斜面の安住については

も、住宅が建っているエリアの安全性についての考えをいかにかという課題があります。今回の災害では消防団の団長が流されたという話があります。今回の台風12号災害は、1000年に一度の大規模災害であり、防災マニエールの見直しをはじめ、後世にこの教訓を伝え継承できるシステムを構築していくべきであると考えています。

地域特性踏まえ 防災概念見直し

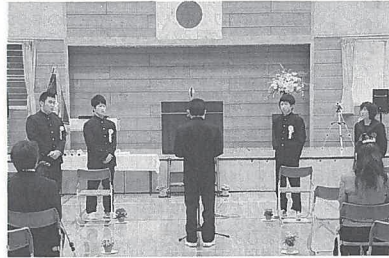
— 今回の災害を教訓として、どのような防災計画が必要か。 太田 五條市は平成17年に西吉野、大塔両村と合併しました。その結果、一口に五條市といってもた

最後の学舎

今月限りで休校となる大塔中学校の最後の卒業式=15日、五條市大塔町字井の同校

先生に誓い

災害を乗り越えた天川中学校3年生6人の卒業式=15日、天川村沢谷の山村開発センター



台風12号

被災地で卒業式 天川中 大塔中

悲しみ越え、前へ

母校の日々 「忘れない」

天川村内の天川中では、豪雨による川の氾濫で講師の大原千幸さん(39)が犠牲となり、グラウンドや体育館の床などに被害を受けた。生徒16人は緊急避難先として天川小学校(同村沢谷)の教室で授業を受けた。 新年度からは生徒が12人になる見通し。村は校舎の復旧を断念し、1年後をめどに再開を目指している。

同村沢谷の山村開発センターで開かれた卒業式で、森本昭博校長は「災害を乗り越えようとする前向きな姿勢に周囲は勇気づけられた。大きな経験があることに自信をもって高校生になってほしい」とエールを送った。 卒業生6人を代表して、杉本将大朗君は「天川中の校舎で過ごした日々を絶対に忘れませぬ」と被害を受けた校舎に感謝、森本型校長は「旧西吉野小学校も、西吉野中(同町江田)と西吉野中(同町江田)に編入する。この日は本校舎で卒業の卒業式があり、卒業生の市平夏美さんが復興の願いを込めて作詞した曲を合唱。卒業生4人全員で読んだ送辞では「母校が無くなってでも大塔での思い出は消えない」と誓った。 新年度は卒業に加え、避難先への転校が相次ぐことで、小学生5人(現在11人)、中学生1人(同5人)になる見込み。 中教育委員会は、必要な教師の確保が難しいと、グループ学習や野幼稚園(同町和田)に移る予定をしている。 また大塔小中と同じ仮校舎にスクールバスで通っていた大塔育野は、新年度から西吉野幼稚園(同町和田)に移る予定をしている。

た校舎に感謝、森本型校長は「大原先生が悲しまないよう、いつも明るく前を向くことを誓います」と力強く述べた。 一方、五條市大塔町字井の大塔小中学校(竹原千里校長)では、周囲で死者・行方不明者が11人上るなど被害が集中。学校もグラウンドやプールに被害を受けたほか、一時警戒区域に入らなした

# 大塔小・中 存続決定

## 文科省が 西吉野に「同居」 特別措置

台風12号豪雨災害で、2校の児童生徒が通えなくなり、本年度から休校するとしていた五條市大塔町字井の市立大塔小学校と同大塔中学校について、同市教育委員会は23日、両校の存続を発表した。文科科学省と県教育委員会が特例的に認めた。

市教委によると、本年度の児童・生徒数は大塔小5人、大塔中1人。単独では必要な教職員の人員確保ができなくなっていた。

同市西吉野町屋那瀬の市立西吉野小学校（藤井利夫校長、101人）と隣接の同西吉野中学校（栗山浩校長、49人）で合同で教育を受けられるため、大塔小・中は休校にするしかない状況だった。

今回の文科省の判断は、2校の児童生徒が一つの校舎、教室で学べる特例的な措置。校長ら教職員の業務が認められ、西吉野小16人、西吉野中14人の教職員全員がそれぞれ大塔小・中の教職員を兼務する。市教委は、前大塔小・中の教職員を西吉野小・中に配属するなど、児童・生徒の心のケアにも配慮した。

存続については、地域住民らからの強い要望を受け、市教委が要望していた。児童・生徒は卒業時に校名を遷転できるという。

堀内伸起市教育長は「子どもたちにとってより良い教育活動を進めることができるとし、なった」と話している。

<平成24年4月24日付 奈良新聞>

# 大塔復興の光ともそう

昨秋の台風12号豪雨で被害が大きかった五條市大塔町に復興モニュメントを造ると、費用捻出のため県内外の有志が募金活動とオリジナルTシャツの販売を始めている。

台風12号

## 広がった有志の輪 ネットで計画着々

取り組みのきっかけは、五條市職員の山本修二さん（54）の妻一子さん（61）が災害直後から発信したツイッターだった。夫は現地対応でほとんど2カ月間帰省しない一方で、同じ市内にいても大塔町の話は聞かなくてこない。一さんは「大塔が置き去りにされるのではないかと不安を覚え、被害状況を訴

え続けた。これが県内外の人々の胸に届き、現地に思いを寄せる輪が広がった。

地元で造られた復興ツリーが1月下旬に撤去されることを知り、モニュメントの再設置を企画。メンバーを中心に「大塔町復興の灯火（あかり）プロジェクト」を発足した。

互いに見ず知らず同士で会合は回のみ。橿原市でパソコン関係の仕事をしている曾我俊雄さん（52）はポスターをデザインするなど、それを得意分野を生かしながらネット上で意見交換し、計画を練り上げた。

モニュメントは高さ約3メートル、幅約2メートルで大塔町の「大」の字をイメージ。地元産材を利用し、ソーラー電源を使って発光ダイオード（LED）で電飾する。場所を検討しながら、秋の設置を目指す。設置費用に充てられた25日と4月22日には大塔町阪本の道の駅「吉野路大塔」で募金活動をし、オリジナルTシャツも1枚1500円で販売する。活動は午前10時から午後3時までで、7月までの毎月第4日曜日を予定している。

一さんや曾我さんらは「モニュメントで復興の灯火をともし続けたい」と協力を呼び掛けてくる。

<平成24年3月23日付 奈良新聞(一部省略)>

## モニュメント設置へ募金活動

### 五條の山本さん ツイッターきっかけ

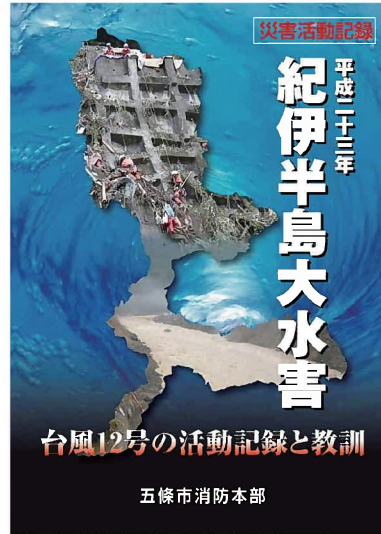


オリジナルTシャツの販売収益と募金で設置を目指す復興モニュメントの模型

# 平成23年台風12号に関する災害誌等



<五條市 総務部危機管理課>



<五條市 消防本部>



<奈良県>



<奈良県 土木部砂防課>



<奈良県>



<国土交通省 近畿地方整備局>

平成23年台風12号 紀伊半島大水害  
**五條市大水害の記録**

---

<発行>  
平成26年3月

<発行者>  
**五條市**  
〒637-8501 奈良県五條市本町1丁目1番1号  
TEL.0747-22-4001 FAX.0747-25-0211

<企画・編集>  
五條市 危機管理課

---

<http://www.city.gojo.lg.jp/>